

# 第4回議会報告会 【市政に関する意見と回答】

(平成24年11月7日～9日開催分)

(会場別の目次) \*\*\*\*

①上堅田	・・・1ページ	⑦蒲江	・・・3ページ	⑫弥生	・・・9ページ
②下堅田	・・・1ページ	⑧上浦	・・・4ページ	⑬直川	・・・10ページ
③佐伯城南	・・・なし	⑨鶴見	・・・6ページ	⑭本匠	・・・11ページ
④和楽	・・・2ページ	⑩大島	・・・8ページ	⑮宇目	・・・11ページ
⑤八幡	・・・3ページ	⑪米水津	・・・8ページ		
⑥大入島	・・・3ページ				

大分県佐伯市議会

No.	会 場	議会報告会における意見・要望等	議会（委員会）の回答	委員会
1	上堅田	女島の14メートル岸壁の利用はどの程度のものか。大在埠頭のようなものなら期待できるが。運送が主になると思うが、どのような活用ができるのか。	水深14メートル岸壁については、平成25年度中の一部完成・供用開始を目標に工事实施中です。一部完成後は、原木や石膏等のバルク貨物（バラ荷）を中心に扱う国際物流ターミナルとしての活用を考えています。現在、佐伯港は水深10mの岸壁があり、年間30隻の外航船が入港しています。（H23港湾統計） 今後は、水深14メートル岸壁をセールスの核にし、東九州自動車道の早期完成とあいまって、海と陸の連携した交通ネットワークが形成されることによって、さらに大型船の誘致を進め、多くの船舶に入港していただけるようポートセールス（港活用の営業活動）を行うとのことでした。 委員会としては、この岸壁の新たな活用に向けた積極的な取組を、要望していきたいと考えています。	建設
2	上堅田	P10のエビセキ川の改良事業について10年掛かるという部分の早期完成をお願いする。	エビセキ川の改良事業については、市の単独事業で平成21年度から整備を行っています。全体計画延長約700メートルの護岸整備を計画している中、平成24年度末までに170メートルを実施する予定です。また、国交省が平成23年度から着手していた蛇崎排水ポンプ場も平成24年12月に完成したことにより、流路整備が急務な状態となっています。 しかし、現状では市単独の事業でしか投資的な手法がなく、交付金事業やその他、国の補助金事業として採択されないことから、事業費の予算確保に努めたいと考えているとのことでした。 委員会としては、財源確保など早急な事業への取組を市に要望いたしました。	建設
3	下堅田	柏江では、水害が非常に多いです。水門のフロート化をお願いしているが、まだ手つかずの状態である。台風の際は、ポンプをリースして設置するというところでしている。フロート化にすることにより、非常に水の排水がよくなると思う。長良地区の水が流れてくれば、宇山、汐月、江頭、柏江が浸かる状況である。	柏江区も洪水時等には、内水被害が発生しています。市では、非常時に堅田川右岸の柏江地区に8インチの排水ポンプを4基設置して内水排除対策を行っています。なお、水門の建設・維持管理については、当該河川は県管理河川であることから今後、県に対し、積極的に水門のフロート化の要望を行いたいと考えているとの市の見解でした。	建設
4	下堅田	柏江は都市計画地域になっている。制約もあり増築などもできない状態になっている。4メートル道路もない状況（農道）である。都市計画地域なため不便さを感じている。農道を市道に格上げしてもらいたい。	柏江区の農道は、幅員が2.5メートルから3.5メートルしかなく、市道認定基準の4mに達していないため困難であるとの見解です。	建設

5	下堅田	運動公園の第一駐車場（球場下）が雨が降ったら雨が一般道に流れ出る。運動公園が出来る前は地面にしみ込んでなんともなかった。運動公園が出来たことによって、それがずっと続いている。何回も要望を出しているが、なかなか改善されない。人家があるが苦情は出していない。排水路の改良をしていただきたいということで前も話したが、全く進んでいない。	総合運動公園の第一駐車場に降った雨は法面を伝い法下の排水路に流れ込むように設計されております。 今回の案件の箇所は、運動公園施設として造成していない山林（むかしの広場）から一般道に流れ出ている状況です。何回も要望を出しているとのことですが、毎年提出される地区からの要望書には、記載されていないことから、まず、地区要望として提出されることが、必要であると思います。その上で、側溝等の設置について検討したいとの市の見解でした。	建設
6	下堅田	通学路に関して運動公園の関係で子どもの自転車が近く、また道路が狭くて車と接触したということもあるのでガードレールの要望も出している。対応をお願いします。	現地を確認したところ、道路幅員が狭く、転落防止柵を設置した場合、車が転落防止柵の柱に接触する可能性が十分にあると考えている。今後、市としては車両通行制限の可否あるいは、通学路の変更ができないかなど、地元・関係機関とも協議したいと考えているとのことでした。	建設
7	和楽	避難地・備蓄関係の整備を早急にやっていただきたい。	市では、津波から人命を守るためには、まず避難路が必要との考えから、地域が設定した津波避難地への避難路の整備を平成23年度から各地域で行っていますが、避難地につきましても、平成25年度から人口の集中する市内中心部の避難地の整備に着手する予定です。 なお、避難地への備蓄倉庫の整備についても実施に向けて調整してまいりましたが、避難地・避難路整備でも制限を受ける農地法や、倉庫と言えども建築基準法が適用されますので検討に時間を要した状況です。 市では、事業実施の準備が整ったので自主防災組織等の意向を調査し、整備の支援を行うとのことでした。	総務
8	和楽	避難地に備蓄倉庫等を考えているが、農地との関係があり困っている。何とか緊急防災対策としての連携でどうにか出来ないのか。	農地法の関係上、農地に備蓄倉庫を整備する場合には、農地転用・許可の届け出が必要となります。市としても農地法の適用を受けず、倉庫の設置が出来るように県や市長会に要望していますが、現状では農地法適用下での倉庫設置を進めていかざるを得ない状況であり、御理解をお願いいたします。	総務
9	和楽	新女島・女島地区の避難路避難地の対策をしていただきたい。 （※避難地が遠いので避難タワー設置を求める主旨）	市では、避難地としては女島山を整備する方針であり、既に避難地として調査・工法を検討する予算を平成24年12月補正で債務負担行為として計上し、その業務委託を発注済です。今後は平成25年度に測量設計、平成26年度に整備工事を行う予定にしています。また、女島山への避難路についても一部工事を発注済であり、平成25年度に残りを整備する予定です。 なお、市では、避難タワーの設置については、まだ具体的	総務

			な計画には至っていませんが、市内中心部の避難計画を検討する中で調査研究を進めていくとのこととです。	
10	和楽	公共施設を造ると維持管理費が掛かってくるが、これから何十年間の間に今ある施設に対してどれくらいの修繕費や維持管理費用が掛かるか等の調査をして、公共施設白書を佐伯市のほうでも作っていただきたい。	「公共施設白書」を作成するには、施設運営に係る人件費、光熱水費、維持補修費をはじめ施設の規模、利用状況などの実態を保有している全ての施設について調査する必要があります。市では、今後、内部協議を行い先進地の事例等を参考にしながら調査・研究を行っていききたいとのこととです。	総務
11	和楽	渡町台小学校の体育館の建て替えをしていただきたいし、同時に備蓄倉庫を備えたものにしていただきたい。	執行部に確認したところ、渡町台小学校の体育館は、現在、耐震診断・補強計画を実施中で平成26年度には耐震補強工事と併せ大規模改造を行う計画になっているとのこととです。 備蓄倉庫の設置については、体育館は建替えではないため、地域の要望があれば、別の事業にて検討することとなります。	教民
12	和楽	渡町台小学校の自校方式の給食室を、被災後の炊き出し等の意味合いからも維持していただきたい。	執行部に確認したところ、渡町台小学校の給食調理場は、耐用年数も過ぎ、老朽化していることから、早急な建替えが必要ですが、他にも老朽化した調理場等も数力所あることから、渡町台小学校のみを単独調理場として建設することは、今現在は考えておらず、行革プランによる「学校給食施設統廃合計画」とおり取り組んでいきたいとのこととでした。 委員会としては、給食センターのあり方について研究していききたいと思えます。	教民
13	八幡	衛星電話を緊急に配備する必要があるのではないか。(避難所からの連絡手段として)	市が津波災害時に連絡手段として全ての避難所に衛星携帯電話を配置することは、月々の維持管理費などからも難しい状況です。市では、巨大地震による被害想定等を勘案しながら現在、避難所を見直し中であり、広域避難所となる施設における連絡手段の確保については、今後研究していくとのこととです。 議会からも管理費については、地元負担にするなど設置に向けての研究を要請いたしました。	総務
14	大入島	堀切の施設は民間が運営しているが、とても狭く利用者の肩が当たるくらいで閉じ込められてかわいそうに感じる。施設の拡張などの対応できないか。	執行部に確認したところ、デイサービスセンター海悠園の食堂兼機能訓練室(談話室)の広さについては、手狭な感はありますが、国の定める基準は満たしており、現段階での施設拡張の計画はないとのこととです。今後は、利用者数の推移、利用者の身体の状態などを踏まえ検討するとのこととですので、委員会としても注視していききたいと思えます。	教民
15	蒲江	消防団と区長さんだけでは対応しきれないので、地元の危機管理体制づくりに対し、どのように考えているのか。	災害による被害が同時多発した場合等、市が公的な応急対策を全ての地域で実施することは難しく、その間の対応は地区や消防団に頼らざるを得ません。幸いにも蒲江地区では、全地区に自主防災組織が結成されており、避難訓練等、地域	総務

			<p>住民を巻き込んだ形で防災活動が行われています。</p> <p>また、市では、地域の防災リーダーとなる防災士の養成や、訓練や資機材整備等にかかる補助制度創設など、自主防災組織の活動支援に努めるとともに振興局等防災関係機関との連携強化を進めながら、地域の危機管理体制を整備していきたいとのことです。</p>	
16	蒲江	<p>佐伯市だけが何でも進んで蒲江が一番取り残されているような気がします。エコセンターも修理ができるときになぜしなかったのか。得をしたのは土地を売ってたくさんのお金が入った人たちではないのか。役目が終わったエコセンターをどうするのか。</p>	<p>執行部に確認したところ、エコセンター蒲江は、大規模改修の必要が生じなく、エコセンター番匠でのゴミ処理量が、現在より10%程度の減量ができるようになるまでの間は、閉鎖することはありません。また、閉鎖した場合でも、敷地内にある最終処分場の管理の関係もあり、跡地利用の計画はないとのことです。</p> <p>委員会としては、ゴミの減量等も含めエコセンターの状況を注視していきたいと思います。</p>	教民
17	蒲江	<p>昔のあの波当津の海岸の面影が今はなくなっている。沖で砂を取るから、みな砂が逃げていってしまっている。</p>	<p>波当津海岸は、白砂青松100選の一つに選ばれており、昔とかわらない美しい情景をそのまま後世に残し、伝えていきたいとの思いは皆さん感じているところです。御指摘の波当津湾沖での砂利採取については、平成23年度で終了しております。佐伯市沿岸ではほかに、上浦蒲戸、大浜沖で平成5年から15年まで、入津湾では30年以上継続しており、平成27年4月で終了の予定となっています。浚渫による浸食及び漁業被害についての因果関係は現時点では把握していません。</p> <p>浚渫による影響としては、船上からの濁水、礫分の排出による影響及び海底地形の変化などが考えられることや生態系への影響が懸念されています。</p> <p>本委員会としても、波当津海岸以外の砂利採取に関わる事業を継続している箇所があることから、生態系への調査結果及び砂利採取量等の状況把握に努めるとともに、引き続き、周辺環境に悪影響を及ぼさないよう注視していくことを確認いたしました。</p>	経産
18	上浦	<p>県に要望しても担当者がすぐ異動になる。市も含め事務引継をきっちりやってもらいたい。</p>	<p>市では、人事異動に伴う事務引継は「事務説明書」「懸案事項書」という書面を用いて行っています。また、自治会からの県への要望に係る対応については、その内容により担当部署へ文書で回答を依頼し、担当部署は現場等を確認して県へ要望書を提出しています。県はこれを受け対応を検討し、市へ回答を送り、これを市が当該自治会に文書で回答しているとのことです。</p> <p>議会としても、県事業に係る事務引継のあり方については、</p>	総務

19	上浦	<p>昨年9月に高校生の通学費補助の請願を出し市議会で通った。3月に執行部からほとんどゼロ回答があり、その後議長から「今後市議会で取り組んでいく」と書面回答があったが1年間そのままになっている。宇目など周辺部では近いからと三重総合などに通っているの、補助を出しても佐伯でと考える。教育委員会は義務教育以外は管轄ではないと言うが、佐伯市には専門学校や大学等がないので、佐伯で人材育成できるチャンスは高校だ。防災についても、阪神淡路大震災後、兵庫県の大学では復興について研究したり、防災科を持っている高校もある。その点からも佐伯市の教育のありかた、人材育成などを提言してほしい。</p>	<p>市の執行部からも働きかけてもらうよう要請いたしました。</p> <p>佐伯市では、平成24年度春季大分県市長会に「高校生の遠距離通学に係る費用の軽減に繋がる支援体制の導入について」を議案として提案し、同会は、この要望議案を採択した上で同年5月に大分県知事に対して、県内の同一市内における「高校生の遠距離通学にかかる支援制度」の導入を要望しています。しかし、同年6月に示された県からの回答では、平成18年度から県が導入している「通学費等奨学金」制度の活用を求めると関係高校が中心となりバス会社等に対し通学定期の割引拡大の働きかけを行うという内容でした。また、第1次総合計画後期基本計画（素案）に意見を求めた地域審議会では「高校生の通学費補助」に関する追加の要望が出されましたが、高等学校が義務教育ではないことや県の見解を踏まえて、市では現時点では補助制度の創設は考えていない旨の回答がされています。</p> <p>議会としても、市に対して補助実施に向けた取組を強く要望いたしました。</p>	総務
20	上浦	<p>学校薬剤師として毎年理科室の薬品検査をするが、古くて薬品名が不明なものもあり理科の先生から相談を受ける。学校は安全な所なので、毒物・劇物の処理ができるような予算を毎年取っておくことはできないのか。</p>	<p>執行部へ確認したところ、平成24年11月の時点で、今後使用見込みがない毒物・劇物等の薬品が存在している学校が、数校ありましたが、今年度中に廃棄処分することです。</p> <p>学校から出される廃棄物や不要な理科薬品の処分費については、教育委員会が毎年100万円の予算を計上しており、この予算により適正に処理しているとのこと。</p>	教民
21	上浦	<p>東九州の観光に力を入れているようだが、素人がPRしても能力に限界がある。延岡・佐伯で東九州観光大使に矢野大和さんあたりに改めてなってもらい、お笑い講演の中でPRしてもらえれば、もっと効率よく観光PRができるのではないか。事業効果は大きいと思うが、どうか。</p>	<p>合併前に矢野大和氏を観光大使として任命、佐伯市観光大使として活躍されていました。市役所退職時に観光大使も辞職され、その後、佐伯市では、観光大使の任命は行っていません。</p> <p>現在、お笑い芸人「ダイノジ」を『ごまだし大使』として委嘱、県内外にごまだしをPRしていただいています。著名人によるPRやメディアへの露出は効果絶大であり、佐伯市としても、矢野氏を初めとする地元出身の著名人と調整を図りつつ、観光大使任命に向けて取り組んでいきます。</p> <p>東九州自動車道の県境間・全線開通に向けての取り組みとしては、佐伯延岡間が無料区間となる有利さを最大限に生かしつつ、臼杵・津久見を含めた広域観光に取り組むとともに、インター周辺の案内板やマップの整備、さらに、ストレスなく、安心してドライブできるよう道路標識の設置をしていきます。</p>	経産

			<p>また、フェイスブックやブログ等、インターネット上のさまざまなソーシャルメディアにも対応する情報発信も積極的に行ってまいります。</p> <p>今後の具体的な取組としては、各社エージェントを活用し、広く広報に努め、ミニツアーの実施（造船の進水式、野路菊、陸地みそなど）を企画するとしており、地元食材の発掘、PRを積極的に行い、誘客につなげていくとのことでした。また、蒲江（名護屋）地区内のグラウンドを利用した「蒲江インターパーク構想」を計画しています。この事業は、地元の方も参加した形のレストランや休憩場などを設け、来街者・誘客の増加につなげようとするものです。</p> <p>周辺地域には、「弁天島」「優心イオン酵素おがくす風呂」「釣っちゃ王」などの観光資源があり、それらを連携させた構想案を策定中です。</p> <p>平成25年度の事業着手に向け、地元からの期待する声も伺っているとのことでした。</p> <p>本委員会としても、これら地元の観光資源を生かした、PR、取り組み等を積極的に行うことで、誘客等にもつなげられる最大のチャンスと捉えておます。引き続き、それぞれの取り組みが有機的に機能するよう支援等を行ってまいります。</p>	
22	鶴見	<p>バスの路線数について</p> <p>(1) 下梶寄まで本数が2便ぐらい減るとい話がある。朝などは高校生の通学用としてなくてはならない路線です。現在、1日7便ありますが、2便ぐらい減る可能性があるということで非常に心配です。</p> <p>(2) 梶寄は乗る人が少ないから、20人ぐらいのマイクロでいいんじゃないのかと言ったら、松浦からたくさん乗るから大型じゃないとだめだと言う。乗る人が少ないから減らすというのはおかしいのか。佐伯の病院に行き帰るといって1日がかりになるので考えてほしい。</p>	<p>民間バス会社では、収支の悪い路線を経営合理化のために廃止や減便をしており、このため市では、住民の交通手段を確保するため既存路線の存続に向けてバス会社と協議をしています。市のコミュニティバス事業は、これまで公共交通機関の空白地域での運行を行ってきました。しかし、平成25年度に地域のバス路線の現状を踏まえながら、コミュニティバス事業の全体的な見直しを検討してまいりますので、議会としても、その推移を注視して参ります。</p>	総務
23	鶴見	<p>防災スピーカーについて</p> <p>防災スピーカーが建っているが、水面から3メートルぐらいの高さにある。もし津波が3メートルの津波が来たときは使えない。なぜあんな高さのスピーカーを建てたのか。（東日本大震災より前にスピーカーは建てられている。津波の想定高がその範囲内であった。）</p>	<p>鶴見地区の防災スピーカーについては、震災前に整備したものであり、旧想定の高さ（鶴見地松浦2.45m）を考慮しているため、確かに御指摘のような設置箇所もあります。また、いかに迅速かつ効率的に、津波警報等の防災情報を集落住民に伝達するか、それを基本的には重視する内容で検討・整備してきました。市では、今後は津波後も有効利用できるように、できるだけ高台に設置するよう検討していきたいとのことでした。</p>	総務

24	鶴見	<p>廃校になった校舎（旧東中浦小・旧東中浦中学校）の管理について、</p> <p>（１）梶寄の学校（旧東中浦小学校・旧東中浦中学校）をそのまましておくのか、壊すのか。外壁には亀裂はないが、耐震性はゼロだと思う。</p> <p>（２）給食調理場だったところが狸の住処になっていて不衛生である。</p>	<p>執行部に確認したところ、施設の跡地利用については、現時点で具体的な利用方法等はないが、地域の要望等を尊重しながら検討する。また管理については、校舎の解体は、財政事情等から現時点では非常に困難な状況にあるので、近隣住民に迷惑が及ばないように除草や衛生面の管理に努めるとのことでした。</p>	教民
25	鶴見	<p>地区公民館梶寄分館について（老朽化） 昭和47年10月建設</p> <p>（１）公民館は台風などの時には避難場所になるが、建物の壁が落ちてきているのでどうにかならないかと思っている。建て替えてくれるという話も何年か前にあったが、議会も考えてほしい。2階建てじゃなくても高齢者が多いから平屋でもいい。2階で会議があっても階段だから出席しない人が多い。ほかのところばかり直すんじゃなくて、梶寄地区も気にかけてほしい。夜だから見えないけど昼間見ていただいたら分かると思う。</p> <p>（２）婦人会活動などに支障がある。（炊事場の水漏れ等）</p>	<p>執行部に確認したところ、利用者の大半が地区住民となっている分館・集会所については地区譲渡など地域と協議を行い、効果的な運用を検討しているとのことであり、鶴見地区公民館梶寄分館についても、建替えの計画はないとのことでした。</p>	教民
26	鶴見	<p>診療所の対応（送迎）について</p> <p>丹賀の診療所では以前、梶寄から丹賀までの間を診療が終わったら、診療所の車で送ってくれたが、今は診療所の車は使用してはいけないということになっているらしい。診療所の職員（所長を含め4人）がいるんですからちょっとの時間、片道5分としても10分あれば患者さんの送り迎えができる。そういう診療所の職員が送り迎えできるような方法がないのか検討してほしい。（バスの便数が減ることによって診療所への通院にも支障がある）</p>	<p>執行部に確認したところ、現在、佐伯市が運営している8ヶ所の診療所のうち、患者さんの送迎を行っているのは、島内に公共交通機関のない大入島診療所のみで、他の診療所では送迎は行っておらず、今後も行わないとのことでした。</p> <p>委員会としては、交通手段の確保について研究していきたいと思えます。</p>	教民
27	鶴見	<p>漁港のことですが、梶寄港の泊地内の酸素量が、この11月から12月頃にかけて異常に少なくなるという減少が何年も続いている。釣ってきた魚が死んでしまうというようなことが続いている。原因がわからないということで、地区要望を通じて港内のしゅんせつをお願いをしたところであり、なるべく早く工事ができるようにと思っている。毎年同じような時期で、通常だったら酸素量が6ぐらいあるのが2とか3とかそういうレベルまで下がって魚が生きられない状態になってしまう。何とかそういう状態を改善できないかと思っいろいろこう考えてはいるんだが、なかなか原因がはっきりわからない中、港内のしゅんせつをとい</p>	<p>梶寄漁港において、10月下旬から12月上旬の間、低酸素の状況が直接の原因と考えられる斃死が港内においてみられました。溶存酸素量調査（※1）により明らかな酸素量の低下が確認された（H24は発生なし）。</p> <p>原因としては、以下の二点が考えられます。</p> <p>（1）漁港内における貧酸素水塊（※2）の発生。（2）外部からの貧酸素水塊の流入が考えられる。</p> <p>港内の水深調査を行ったが、貧酸素水塊が発生させるくぼ地は確認されませんでした。</p> <p>また、地元漁協に聞き取り調査をしたところ、港内の一部にヘドロが堆積しているとの情報がありました。</p>	経産



		うことで地区を通じてお願いをしているところである。	<p>これも貧酸素が発生する一つの原因と考えられることから、躍層（※3）の形成される夏期にDO（溶存酸素量）調査し、確認をする予定です。</p> <p>一連の調査を実施し、原因の特定を行い、対応策を検討します。</p> <p>なお、委員会としても、本事案については、現時点において、原因の特定まではできていないことから、引き続き、夏期に実施予定のDO調査の結果を見ながら、発生原因の特定・解明を行い、問題解決・対策等検討することを確認いたしました。</p> <p>※1 溶存酸素量（DO）とは 水中に溶けている酸素の量。水質の指標として用いられる。</p> <p>※2 貧酸素水塊とは 水中溶存酸素量が極めて不足している孤立した水塊、このような水塊の占める水域のこと。これらの移動により、海中あるいは海底に生息する生物が斃死し、漁業や養殖業といった水産業に打撃をもたらすことがある。</p> <p>※3 躍層とは 水温、密度のような状態や塩分、溶存物質濃度などの性質が、鉛直方向に大きく変化する層。</p>	
28	大島	<p>離島における救急搬送については大島・深島などは該当しないのか、大入島だけか。</p> <p>夜間はまず看護師に電話し、看護師が医師に連絡し、その指示を受けた看護師から指示を受けている。</p> <p>一人常駐の看護師さんがいれば皆が安心して暮らせる。今は週に一度、医師と看護師が訪問してくれるだけ。市から一人看護師を派遣してもらいたい。</p>	<p>看護師を常駐させることについて、執行部に確認したところ、医療法等の問題もあり、今のところ考えていないとのことです。</p> <p>委員会としても、離島における医療体制については、研究していきたいと思います。</p>	教民
29	米水津	<p>公衆電話的な災害対応用の電話というものが設置できないか。</p> <p>（避難所からの連絡手段として）</p>	<p>米水津の消防団では、現在、海岸線では4キロメートル程度の通信が可能な無線登録不要のデジタルトランシーバーの導入を検討しています。避難所からの通信手段としても活用が期待できるので、市では、消防団との連携も図りながら検討を進めていきたいとのこと。</p>	総務
30	米水津	米水津のトンネルがなぜできないのか。	<p>県道色宮港木立線の道路改良事業の促進及び第2浦代トンネルの早期着工については、市の重点課題として、今年度も大分県に対し要望書を提出しています。県の回答では、木立側の線形不良箇所については、今年度、道路詳細設計を行っており、来年度以降に用地買収を行い、改良工事に着手する予定とのこと。まずは、木立側の急カーブが連続する箇</p>	建設

			<p>所について、整備を進めていくと聞いています。</p> <p>トンネルについては大きな費用を要する大規模事業であり、早期の着工は難しいとのこと。</p> <p>この問題は重点課題でもあることから、委員会としても地元住民と協力しながら、早期着工に向けた要望を県にしていきたいと考えています。</p>	
31	米水津	<p>宮野浦の住民は、夜は400人ぐら이다か昼間は水産加工会社に従事する従業員で900人規模に膨れ上がる。若い人に働いてもらいたいが子どもを預ける認定保育園がないのでどうにかならないか。</p>	<p>米水津地域の認定こども園等設立の要望ですが、これまでも市に対し地域から要望があり、執行部から、市の対応等経緯の説明を受けました。「認定こども園」・「預かり保育」・「保育所」等いくつかの制度や施設があり、利用者により設置を望む施設も様々であるとのことでした。</p> <p>委員会としては、まずは、米水津地域の中で十分協議いただき、地域の要望を一つにまとめることが必要ではないかと考えます。</p>	教民
32	弥生	<p>防災カメラ（大雨警報などの際にケーブルテレビで放送をしてももの）の今後の設置予定はあるのか。設置地区の優先順位などはあるのか。</p>	<p>市では、防災カメラの増設予定はありませんが今後、消防団や関係機関等からの要望があれば庁内で協議し、設置に向けて調査等を行います。また、設置地区の優先順位については、一度に多数の要望があれば検討しなければなりません。災害対策で必要と判断すれば、可能な限り設置する方向で対応したいとのこと。</p>	総務
33	弥生	<p>河川の浸水について、災害が発生する前に水が出たら直ぐに見に行くようにしている。非常に心配しているので市も同様の対策をお願いします。</p>	<p>番匠川、井崎川の大臣直轄区域について、国交省は、定期的な河川巡視や点検を実施しており、必要に応じた修繕を行って安全確保に努めています。</p> <p>また、予防対策として異常降雨時における被害の拡大を防止するため地元自治体、河川管理者及び消防機関等の協力により、重要となる水防箇所、その他危険区域を巡視警戒し、危険があれば直ちに適切な処置をとれるよう逐次警戒に努めています。水門管理については、水門操作を市が国から委託を受けており、操作人を配置して、外水の浸入や内水排除対策の対応に努めています。</p> <p>市も台風等による災害が予想される場合は、災害対策本部を設置しますので、要請があれば、その中での対応は可能との市の見解でした。</p>	建設
34	弥生	<p>運動公園の指定管理者の募集にミズノが手を上げたが、これまでの管理団体に優先権があるような話でミズノを断ったらしい。ミズノはオリンピックの選手を抱えており、指定管理者になった際には施設の活用いろんなパイプがあったはずだ。市は電話一本でこれを断っており、これを</p>	<p>「佐伯市総合運動公園の指定管理者の指定について」は、平成24年第5回定例会（12月定例会）にて上程され、委員会審査後本会議にて可決されました。</p> <p>委員会審査等を行う中で、指定管理者選定の経緯についても説明を受けましたが、条例及び募集要項にそって適正に選</p>	教民

		市の3役は知らなかったという。なぜ、こんな経緯になったのか質してほしい。	定されており、御指摘のような事実は確認できませんでした。	
35	直川	鶴岡小学校そばの踏切について 鉄道の踏切について、10年以上前から気になっているが、鶴岡小学校のところの踏切は坂の浦や野口のほうに行くときには左側が見えなく気になっている。どうして改善されないのか。左側に杉の木がなんか並んでいる。どうしてあれを切って見えるようにしないのか。学校のほうもいくらか防壁になっているのかと思うが、どうして切り倒すことができないのか。やっぱり人命に関わるので納得のいくような処置をしてもらいたい。	杉の管理について、執行部に確認したところ、杉が植えられている敷地は、JRの敷地であり、これまで電車の運行に支障をきたす場合は、JRが剪定作業等を行ってきたとのこと。また学校からは、防音・防塵対策として残してほしいとの意向もあり、市としては伐採の必要性はないと考えているとのこと。	教民
36	直川	体育協会のあり方（公民館との連携含む）について 教育委員会では、社会教育、社会体育、公民館長含めて全部、囑託なり臨時となっているが一番困るのが、体育協会の関係である。佐伯市体育協会は会長は市長で、8力町村の振興局管内は、区長が今、支部長をしている。宇目の唄げんかマラソンや本匠の水車マラソンなどの表彰では支部長である区長がするが、表彰状の最後は佐伯市体育協会会長西嶋泰義と読み上げる。そういうことを考えたときには振興局のトップである振興局長が体育協会の支部長になれば格好がつくのではという気がする。旧郡部の場合、町村長が体育協会の会長をしていたので非常にガチッとしていた。また公民館では、現在直川の公民館は、5人か6人いますが、振興局とは全く関係がない。全部直営ではないので本庁でやっている。一般住民から見れば、振興局長が全て把握しているなという気がするが、振興局長は全く公民館関係には携わっていないので、体育協会の支部長にでも振興局長がなれば、教育委員会との接点ができるのではという気がしている。昔は人づくりは社会教育課、体力・健康づくりは体育協会なり社会体育でしていた。このような実情を知っていただいで、実際にどのようなかたちがいいのか、振興局長がいいのか、議論してもらいたい。	執行部に確認したところ、『住民主体のスポーツ振興』を目指し、平成23年度から支部長を地区住民の代表者に変更したとのこと。 しかしながら、教育行政と振興局との接点がないとの御指摘もあり、今後は、公民館長会議・推進委員会議で出される事業計画・報告等の社会教育事業及び体協支部事業やスポーツ振興施策について各振興局長に周知し、計画段階から広く意見を聞く機会を設けることで振興局と教育行政とのつながりを構築し、各地域の状況を踏まえた社会教育・社会体育活動が行えるよう改善するとのこと。	教民
37	本匠	防災スピーカーについて、市長は全体で40億円かかると言ったが、本匠など山の中では一軒屋とかが多く、スピーカーでは効率悪い、戸別のほうがいいのではないかと。40億円掛かるのなら何年間かけてやればよい。戸別があるところも廃止の方向と聞くが考え直してほしい。	本匠の山間部などスピーカーでの効率が悪い場合は、戸別受信機の設置を行っています。しかし、戸別受信機の設置は1台が5万円掛かり、電波状況の悪いところではアンテナの設置に5万円掛かります。また、維持管理にも費用負担があり、耐用年数も10年程度と考えられていますので、財政状況の厳しい佐伯市で全戸に設置することはかなりの負担とな	総務

			<p>ります。確かに防災スピーカーでは、降雨時等屋内では聞こえない状況もあり、防災担当課ではそういった意見も踏まえ、さいきホットメールやCATVのデータ放送及びテロップでの防災情報の提供を行っていますが、まだ不十分だと思われます。</p> <p>市では、今後地域から要望のある防災ラジオの導入について平成25年度に調査する予定であり、この導入を含め屋内での防災情報伝達手段の構築を考えていくとのこと。</p>	
38	本匠	<p>大手前開発については、今まで使ってきた経費を市民にわかりやすい説明を市報に載せるなどして説明責任を果たしてほしい。</p>	<p>執行部に確認したところ、平成24年度の予算は執行中であり決算も経ていないので、公表の仕方については、今後、市報への掲載も含め検討する。また、平成25年度、26年度の次期計画策定に向けた取組の中で、これまで使った経費を含め市民にわかりやすい説明をし、理解・協力を得たいとのことでした。</p> <p>委員会としては、調査設計費の内訳や人件費についても市民へわかりやすく公表するよう要望しました。</p>	地開
39	宇目	<p>保健福祉センターの統合と大分バスの田原から木浦線が廃止、そして火葬場の廃止。この宇目地区は佐伯の中で一番距離があるんです。今後の住民サービスがどうなっていくのかということを議会の方がチェックをしていただきたい。蒲江とか宇目とか距離がありますから、ここは特区的な感覚で振興局長さんの権限も与えて、ここで政策を決定して本庁に報告して行政をやっていくというスタイルがいいと思う。行革でしゃにむに減らすと住民サービスがおかしくなってくる。その辺をしっかりと見ていただきたい。</p>	<p>市では、職員数の削減による市民サービスの低下を来さないように、事務事業の見直しを行い、取り組んでいます。今後、地域主権改革が進む中、本庁と振興局の担う業務・役割分担について更に検討がされるため、議会もこれを注視してまいります。</p>	総務